

7月模試を振り返りつつ

みなさん、夏休みはどうでしたか？特に3年生はもちろん進路に向けて階段を昇っている最中ですが、1・2年生のみなさんも、オープンキャンパス参加等、それぞれの進路に対する意識を高める夏休みになっていたらよいですね。

さて、全学年とも7月の模試の結果が出てくる頃です。一学期の模試関連は、各学年ともベネッセの「**スターディーサポート**」と「**進研模試**」の結果分析がメインになりますね。おそらく多くの人が、マナビジョンを使って結果を見ていると思います。ただ何となく点数や偏差値、あるいは大学の判定を見て一喜一憂しているだけでは次につながりません。学年全体や、教科、個人の分析などについてはそれぞれの先生方から具体的な話があると思いますので、ここではやや一般論にはなりますが、学校全体の様子について、ベネッセの担当の方から聞いた話も含めたコメントをします。

本校では進研模試を各学年とも7月・11月・1月に実施しています（3年生は他社もあります）。進研模試は全国で毎回大体同じぐらいの人数の高校生が受験しており、本校も毎年受験しています。そのため全国での自分の現在位置もわかりますし、また、去年の本校の生徒との比較（先輩の結果との比較）もできます。

そんな進研模試を実施しているベネッセの分析によると「**静岡曲線**」（仮）というものがあるそうです。

「**1年生の7月・11月の模試はそこそよいが、2年生の7月・11月模試はちょっと下がり気味、そして3年後半から持ち直す**」というような感じです。これ、本校も、県内の〇〇高校も、だいたい同じです。

静岡県は全体的に勉強も部活もしっかり頑張る高校が多いので、やはり2年生の4～6月は部活等が忙しく、7月模試は全国と比較するとやや苦しい結果になるというのが、「静岡曲線」の理由だそうです。実際、今年の**2年生**の模試結果を見てみても、人によりますが、多くの方はしんどい結果だったと思います。

また、**3年生**も6・7月の模試は全国の受験モードにやや乗り遅れがちになり、ちょっと模試の結果は足踏み状態になってしまう人が多いです。

ここで言いたいことは2つです。1つは先輩たちもみんなそうだったよ（だから大丈夫）、ということ。そしてもう1つは、だからと言って、このままでいいわけではないよ（だから頑張れ）、ということです。

では、ここからどう秋～冬に向かっていくか。

まず、やっぱり一番は「**勉強時間**」に尽きます。この時間は、単なる合計時間というよりは、**習慣化**がカギになると思います。つまり、急に10時間やる日があるよりは、毎日2時間（実際にはもっとですが）やる方が大事だよ、ということです。

一方で、何時間やっても成績が伸びないと感じている人もいます。そういう人に向けてちょっとした工夫・考え方を紹介したいと思います（ここまで長かったです、**今回の本題はここです!**）。

本校のような高校では「**課題発見・克服型**」の学習をするとさらに成績が向上すると言われていています。本校の多くの生徒は、「与えられた宿題をやる」、「範囲の決まっている試験で合格点を取る」というところまではできています（でなければここにいません）。次のステップとして重要なのは「**自分に足りないものは何か課題を発見し、それを克服する**」というところ。定期試験でも、模試でも、あるいは問題集でも、自分の苦手なところ、弱点を発見して、それをクリアするためにはどうすればいいかを考え、克服する、ということです。

ちょっと失礼な言い方にはなりますが、勉強でも部活でも、家の手伝いでも「**言われたことはできるけど、言われていないことはできない**」と指摘されることはありませんか？それです！

勉強面で言うと、例えば買ってきた問題集を、「**全部解こう**」という人と、「**自分はこの分野が苦手だから、このページはやるけど、このページは大丈夫だから白紙のままでもいいや、次の問題集買おう**」という人との違いと言えます。真面目で伸びにくい人には前者、効率よく勉強ができてい人には後者のような人がいます。

他にも、自分の足りないところを埋める方法として、**自分の出来なかった問題を他の人と一緒に解いたり、あるいはできる問題でも、他人に説明するということも効果的です。**案外、**自分ではわかっているつもりの問題を人に説明すると、自分の不十分ところが発見**できたりします。

もちろん、各教科の先生に、「**自分の足りないところはどこですか?**」と相談するのもあります。そういえば最近の磐南生は質問をする生徒が少なくなったように感じます(これは、コロナ以降の状況かもしれません。旧校舎のころは職員室前にぞろぞろ質問の列ができていた記憶があります)。

それから、学習面以外にもう一つ模試の結果を見て気になったことがあります。2・3年生は模試ごとに志望校を登録していくわけですが、**もう少し背伸びをしても大丈夫だよ**、と感じます。模試の結果などを見て、自分の力を過小評価して志望校を遠慮していたりしませんか?もちろん、3年の後半になったら、少し現実を考えて志望校選びをしなければなりません。3年生のこの時期までは、どんな大学を第一志望にしても大丈夫です。E判定が出たからって、本番で合格すればいいのです。より高く目標を掲げて頑張っていきたいものですね。もし、A判定やB判定の大学があるなら、**もう1ランク上の大学を目指してみましょ!**

今回の大学研究:岐阜大学(主に工学部)

先日、岐阜大学の工学部の説明会に参加してきました。静岡県民からすると、岐阜大学はちょっとイメージにくい大学ですが、工学部に関しては、静岡大学と同じか、岐阜大学の方が少し難易度が高いかもしれません。話を聞いてなるほどと思ったのが、愛知県(名古屋)から1時間程度で通えるので、かなり愛知県の学生が多いそうです。また、2020年から名古屋大学と東海国立大学機構の構成大学となり、単位認定や共同研究、実験設備の利用などで連携のメリットがあるようです。したがって、工学部に関して言うと、愛知県の高校生は、まず名古屋大学・名古屋工業大学を考え、厳しいな、と次に選ぶのが岐阜大学、その次に静岡大学や三重大学、という構図になるそうです。

岐阜も自動車産業を中心とした東海地区の工業地域のお膝元ですので就職はばっちりです。**機械系・電気電子系**は静岡大学と似たようなものですが、興味深かったのが、**社会基盤工学科**と、**化学・生命工学科**でした。

社会基盤工学科は、いわゆる「**土木工学科**」です。いつも言っていますが、静岡大学工学部の弱点は、土木系がないということです。近年の、リニアをはじめとしたトンネル・橋梁工事や、あるいは防災といった観点からも、土木系のニーズは今後も必ずある分野です。岐阜大学工学部社会基盤工学科は土木に関する技術系の資格もきちんと取得できる良い学科だと思いました。

もう1つの**化学・生命工学科**、特に**生命科学コース**は、岐阜大学の**医学部・応用生物科学部(旧農学部)**、さらに同じキャンパス内にある市立の**岐阜薬科大学**との共同研究がさかんというところに特徴があります。これも静岡大学工学部がやや苦手とするところですね。同じキャンパス内に**医学・農学・薬学**を研究している学部があるのは強いです。**製薬・化粧品・食品**などを考えている人は、こういう道もあります。ちなみに、生命科学コースは、半分ぐらいが女子だということです。実はこれだけでなく、**機械工学科**でも「**医工連携**」として、VRを医療に応用(遠隔手術とか、介護ロボットとか)するといった研究をしていました。

今回は工学部の説明会だったので、他学部の情報は十分には得られませんでした。岐阜大学はかなり理系寄りな大学だという印象を受けました。**医・農**(応用生物科学・しかも獣医まである!)・**工**、隣に岐阜薬科大もあるので、**理系は全部揃っている**と言えます。これに対し、文系の学部となると、教育学部・地域科学部・社会システム経営学環とありますが、いわゆる文・法・経済といった文系王道学部はありません。少し不思議な感じがあります。同じ地域の文系学部だと三重大学の人文学部(文・法・経あり)がおすすめですね。

ちなみに、大学とは全然別の話ですが、岐阜の駅前には昭和のにおいが漂っていて、興味深かったです。

今回は静岡大学と比較しながら岐阜大学を見てみましたが、別にどちらがいい、悪いではありません。もちろん、岐阜大学をプッシュしているわけではありません。毎度のことですが、大学にはそれぞれ特徴があります。こういった記事から、どういう視点で大学を見るのか、自分にとって大事なポイントはどこか、ということを考えるヒントにしてみてください。